



かたはSP学生Office

教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

かたはSP通信

と ひ と 学 生 ぐ ム ツ

第12号

2017年4月27日

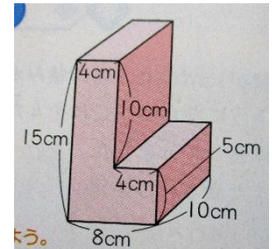
編集 濱島和也
(片葩小SP担当)

今日も若々しいSPさんが活躍してくれました。そんな姿を見ることで、自分の指導や授業を、原点に戻って振り返ることができます。まずは、自分の良くない指導だなあと反省していることから書きます。

家庭科の時間に普段からゴソゴソしていて口の立つ男の子が、ふざけて三角コーナーを落として壊してしまいました。私は、大きな声で叱りました。叱るときは、その場面場面の出来事に対する指導でなければいけません。しかし、私はその子の今までの言動まで含めて厳しく指導をしてしまいました。その子の顔はこわばり、落ち込んでいるようでした。この場面で、その子自身が一番「やってしまった」と感じていたので、もっと冷静な言葉で指導した方があの子に響いたのではなかったかと反省しています。SPの人たちも場面に応じて瞬時の判断で指導することばかりですが、そういう経験をたくさん積み重ねてください。今のうちに経験しておく、現場に出てから自信をもって指導することができます。特に低学年の子どもたちに言葉で指導することはとても難しいことです。ぜひ冷静な言葉で、子どもたちの心に響く指導を実践してみてください。

次は、算数の「体積」の授業についてです。去年は竹内先生や東浦町教育委員会指導主事の田川先生からご指導いただくことができ、本当に幸せだったと思っています。算数という「子どもたちがつまずきやすく、時間数の多い教科」で、いかに子どもが自分で考えて充実感を味わうことができるかということを念頭に置いて、授業を組み立てるようになりました。

今日は図形の体積の求める授業でした。教師がやり方を提示するのではなく、3人のグループにホワイトボードだけを与えて、『先生は3つやり方を見つけました。みんなも話し合ってやり方を見つけてください。』とだけ指示しました。この体積の求め方は6通りありますが、あえて3つと言ったのは、机間指導の時に「先生はこのやり方見つけてなかった。みんな、4通りに増えたよ。」と声かけをし、「もっとたくさん見つけよう。先生を超えよう。」という意識を芽生えさせようと考えたからです。先生から教わったのではなく、自分たちで学んだと実感している子どもたちの顔は、とても満足そうでした。学校で学ぶ意味は、 $1+1=2$ ではなく、 $1+1=30$ になることだと改めて感じました。「この授業が去年の11月にできれば…」と心から思いました。



【追伸】下の2枚の写真は、子どもたちと学校の池にメダカを捕りに行った時のものです。最初は生き物係だけの予定だったのですが、多くの子どもといっしょに行くことにしました。こういう時間は忙しさや疲れを忘れることができ、子どもたちととても楽しい時間を過ごすことができました。

